

第6回 同窓生講演会

丸山文宏さんが講演

—— 人工知能の過去、現在、未来 ——

平成30年度同窓生講演会は、平成30年9月27日(木)、高26回卒の丸山文宏氏を講師に招いて、富士高校体育館で全校生徒(富士高生、附属中学生)を対象としたキャリア教育講演会として実施しました。

講師の丸山氏は富士高卒業後、東京大学工学部計数工学科卒業、株式会社富士通研究所で人工知能を研究され、一般社団法人人工知能学会副会長、監事等も務められ、現在、株式会社富士通研究所人工知能研究所特任研究員です。

講演のテーマは「人工知能の過去、現在、未来」。人工知能(AI)が様々な分野で実用化し、これからAIと共に生きていく、新たな時代の幕開けにいる中高の生徒さんたちに、富士高の先輩であり、現在日本のAI研究の第一人者である丸山氏の講演を、キャリア教育講演会という形で、実現できたのは、若竹会としてもたいへんうれしいことでした。上野校長先生の柔軟なご対応に感謝いたします。

当日の丸山氏の講演は、たいへん生徒さんたちに親しみのあるものでした。まずは丸山氏は自身の富士高時代を少し振り返って、合唱部、陸上部のことを交えて自己紹介されました。

そして最初は、第一次AIブームで、二等辺三角形の底角が等しいことをどう証明するかというお話からでした。中学生が学習する二等辺三角形に関する定理の自動証明の話です。さてAIは我々が中学生のときに学習するやり方には目もくれず、なんと二等辺三角形に、裏返した二等辺三角形を重ね、それが合同であることを使って、底角が等しいことを証明するという話でした。人間には思い付かないようなやり方をAIが選んだことは興味深い話でした。

それから今までのAI研究の変遷の話の中で、第二次AIブームで、病気の診断や機器の構成等で専門家と同じ結論をすぐに導きだすことを可能にしたエキスパートシステムの説明がありました。

また、Xという事象が起きると、Yという事象が起きやすいという相関ルールについての解説。ここでは具体的な例で、お父さんが会社の帰りに買い物をする話で、紙おむつを買うお父さんは、ビールも買うという

傾向にあるということです。お母さんが留守で、子守りを頼まれているお父さんはビールを飲みながら子守りをするという家庭の事情が想像できて、AIになんでも見透かされてしまうように思い苦笑してしまいました。人間の脳のように働くニューラルネットワーク技術、ビッグデータの解析技術、画像認識技術とそれぞれの技術の進歩のうえにディープラーニングという深層学習の技術が加わり、AIの実応用は急速に広がりつつあり、暮らしの自動化、省電力、自動運転等、実現しつつあります。一方、AIにはまだ苦手なものもあります。ロボットは東大に入れるか(東ロボ)というプロジェクトがありましたが、AIは文脈の判断がまだ苦手です。長文の中身はほんとうにはわかってなくても、今までのデータ分析で回答してしまいます。

AIの適用のねらいは、人間ができないことを瞬時に、精度、品質を高め、実現することです。そしてまた、たくさんの学習により、固定観念の限界を超えることです。コンピュータ同士が学習し合うようになるのです。

いかに私たちはAIを社会の役に立てられるか、現在の中学生、高校生のみなさんが主役の時代となるでしょう。

質問タイムでは、中学生から質問がありました。

人間を超える知能を持ち、さらに感情を持つAIが現れるのでしょうか。そういうAIと人間は共存できるのでしょうか。

丸山氏は、人間とAIは互いの優れたところを補いあいながら共存できるので、そういうAIができれば、友達になって、より良い社会を作ってくださいと答えられました。

丸山氏の講演は、富士高生、附属中学生たちが、創造力を持って強く進んで行く、大きな応援になったと感じました。後日、キャリア教育担当の先生より、生徒たちは、AIに対する理解だけでなく、AI研究の最先端に行くのが富士高の先輩であることに、とても親しみを感じていたこと、合唱部や陸上部の生徒たちはさらにでしたとのお礼をいただきました。

(高校26回卒 雑賀 涼)

